

氏 名	角田 響介
学位の種類	修 士 (看護学)
学位記番号	修 士 第 203 号
学位授与年月日	平成28年3月10日
学位論文題目	社会復帰したうつ病患者の配偶者におけるコミュニケーションの工夫

## 論文内容要旨

※整理番号	208	(ふりがな) 氏名	かくた きょうすけ 角田 響介
修士論文題目	社会復帰したうつ病患者の配偶者におけるコミュニケーションの工夫		
<p>I. 研究目的 本研究の目的は、社会復帰したうつ病患者の配偶者におけるコミュニケーション上の工夫を明らかにすることである。</p> <p>II. 研究方法 A 大学医学部附属病院に定期的に通院している患者の配偶者 5 名に対し、インタビューガイドに基づき半構成的面接を行った。得られたデータは質的帰納的手順によって分析した。</p> <p>III. 結果 質的帰納的に分析した結果、81 の下位カテゴリー、31 の中位カテゴリー、8 つの上位カテゴリーが抽出された。上位カテゴリーは、【理性を抑えられず不満や苛立ちを表出】、【心身の休息の仄めかし】、【家事を率先して実施】、【病状に合わせてながら妻の希望に配慮】、【妻を一人にしないよう留意】、【刺激を避けるよう意識的に配慮】、【常日頃から心掛けるうつ病についての理解】、【夫婦の阿吽の呼吸による対応】であった。</p> <p>IV. 考察 うつ病患者の配偶者である夫は、当初において経過を心配し、客観的に妻の様子を客観的に捉え、病気そのものや接し方がわからないまま世話をしていたにもかかわらず、【理性を抑えられずに不満や苛立ちを表出】してしまっていたことが明らかとなった。そこから紆余曲折はあったと思われるが、周囲の環境を整え、休めるように配慮することで【心身の休息を仄めかし】、さらに【家事を率先して実施】していた。また、【心身の休息を仄めかし】を行うために【刺激を避けるよう意識的に配慮】【妻を 1 人にしないよう留意】していた。さらに、【心身の休息を仄めかし】を行う上で、気分転換を図るために【病状に合わせてながら妻の希望に配慮】していたと考えられる。【心身の休息を仄めかし】を行うために上記の 4 つを行っていたが、これらを行うことで結果的に【心身の休息を仄めかし】にも繋がっており、これらは相互に関係していたと考えられる。また、これらは、【常日頃から心掛けるうつ病についての理解】が行われる前から実施されており、【夫婦の阿吽の呼吸による対応】でもあると考えることができる。その上で、【常日頃から心掛けるうつ病についての理解】をすることでより一層【心身の休息を仄めかし】、【家事を率先して実施】、【病状に合わせてながら妻の希望に配慮】、【妻を 1 人にしないよう留意】、【刺激を避けるよう意識的に配慮】することに繋がったのではないかと推察された。</p> <p>V. 総括 うつ病患者の配偶者である夫は、一時的に精神的・身体的に余裕が無くなることで、当初においては妻に対して不満や苛立ちを表出してしまうこともあったと考えられるが、上記で述べた様々なコミュニケーション上の配慮や工夫を用いて日常生活を送っていた。また、配偶者の負担が増えることもあり、レスパイトケアをはじめ、配偶者や家族の感情を受け止め、支援するための会合等といった啓発活動を広く普及させる必要があるとの示唆を得た。</p>			

- (備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1200 字程度)  
2. ※印の欄には記入しないこと。